

【事業所名：日中支援型障がい者グループホーム綴～つづり～ 大垣静里1号館】

項目	評価の視点	実地状況等【具体的な内容】	協議会委員からの要望・助言・評価	事業所 回答
1. 地域に開かれた運営	実習生やボランティア等の受け入れ	<div><div>・ 受入人数：実人数</div><div>0 名</div><div>・ 実習等受入事例</div><div>なし</div></div>	<div>①実習生やボランティアの受け入れがありませんが、この間、受け入れができなかった理由を教示いただきたい。また、実習生やボランティアの受け入れに關しての事業所としての考えを教示いただきたい。</div> <div>②実習、ボランティアの受け入れがないのは残念だが地域との交流機会を設けているのは良いことです。</div> <div>③地域住民との交流の機会がまだ少ない。実習生やボランティアの受け入れを多くして地域に認められる努力をして欲しい。</div> <div>④実習生やボランティア等の受入れの実績がないので、今後は積極的に受け入れ、地域に開かれた運営を目指して欲しい。</div>	<div>①～⑨</div> <div>・実績としてはゼロではありますが法人として過去に実習生やボランティアの受け入れをお断りしたことはありません。慢性的な職員不足もあり、積極的な受入れ施策は今まで打ち出していませんでしたが、この7月で職員体制不足の解消の目処が立ち、受入れ余力が整いつつあります。体制が整い次第、地域交流の選択肢を増やしていきたいと考えています。</div> <div>・地域交流の一環として広報誌（写真付きの活動に関する情報提供）を隣接する生活介護より家族への配布は行っているところではありません。また、利用者様が作成したエコバックを近隣のスーパーに設置させてもらい、当法人の活動を知ってもらう契機とさせて頂いています。</div> <div>・イベント等のボランティア依頼については同法人の別事業所での実績もあるため、参考にして実施していきたいと思います。</div> <div>・地域連携推進協議会については現在、本部とも調整しながら今年度中の開催に向けて人選、実施時期等を検討しているところです。</div>
	地域住民との交流の機会の確保	<div>・ 交流機会の事例</div> <div>町内の清掃活動（ゴミ拾い）を散歩しながら実施</div>	<div>⑤ボランティア等の受け入れを実施していない。地域住民との共生、相互理解のためにも実施されると良いのではと考える。</div> <div>⑥地域に開かれた運営というのは難しいかと思いますが、ある地域では自治会と協力して、一緒に夏祭りをしているところもあります。</div> <div>⑦災害時、緊急時の備え、近隣住民や自治会との関わりやつながりを積極的に設けていただきたい。</div> <div>⑧今年度から義務化された地域連携推進協議会は必ずやって欲しい。</div> <div>⑨地域連携推進会議等の開催など活用し、利用者の方と地域との関係づくりやサービスの透明性に努めてもらいたいです。</div>	
2. 短期入所の併設	地域で生活する障がい者の積極的な受け入れ	<div>・ 利用者数 令和6年度 延べ利用日数215</div> <div>8名（うち大垣市の支給決定者3名）</div>	<div>①短期入所の緊急受け入れがありませんが、ニーズがなかったのでしょうか。それとも、事業所の体制や支援の問題、または他の理由からでしょうか。教示いただきたい。</div> <div>②受入人数は0名とのことですが、依頼はありましたか。どのくらい応じていただけるか分かると良いです。</div> <div>③入居希望者によるが知的障がい者、特に障害支援区分5、6に当たる人を積極的に受け入れてほしい。また、医療的ケアの必要な人の短期入所もしっかり受け入れられる体制づくりをして欲しい。</div> <div>④緊急的利用のニーズがある場合、受け入れができる体制がとれるよう、今後も努めていただきたい。（緊急でも安心して入ることができる運営を目指して欲しい）</div>	<div>①～④</div> <div>・昨年度は2回程、緊急受入れの電話を頂いていますが、いずれも利用には至らず、実績として計上されていません。受入れ体制については日中支援型であるため、ある程度の方は受入れ可能かと思います</div> <div>が、看護師配置はされていないため、継続的な医療的処置が必要な方や他利用者との関係性でリスクが高すぎる方等については一律に扱わず、事業所の体制見合いで是々非々で対応していきたいと考えています。</div>
	緊急的利用のニーズへの対応	<div>・ 緊急受入人数</div> <div>0名</div> <div>（令和3年12月1日～令和7年5月1日）</div> <div>・ 緊急受入れの事例</div> <div>現時点での受け入れはありません。</div>		
3. 支援の実施	利用者が充実した地域生活を送るための外出や余暇活動等の支援	<div>・ 外出や余暇活動等の事例</div> <div>買い物や病院・美容室同行。季節のイベント、ゲーム、お誕生日会、地域散策などを行っている。</div>	<div>①余暇活動（日中活動）を、日々どのようなプログラムで提供しているのか教示いただきたい。</div> <div>②職員数、職員の労働環境について知りたい。利用者も高齢化してくると思われるので十分な人材の確保をお願いしたい。</div> <div>③支援スキルの向上をめざし、もっと積極的に研修に参加して欲しい。また、資格の取得も考慮に入れ、努力してもらいたい。まだ、研修等の参加が少ない。</div> <div>④グループホームでの虐待ニュースが連日聞かれる中ですので、支援者の研修をもっと積極的に行っていただきたいと思います。外部講師や協議会での研修も活用していただけるとより良いと思います。</div> <div>⑤研修の機会がかなり限られている。人材育成、資質向上が入居者の生活の質向上につながると考える。</div>	<div>①昨年度もお答えしていますが、日中活動については1名の方を除き全ての方が外部施設（隣接する生活介護及び近隣の就労B型等）へ行かれています。月例会等のイベント等は土日に開催していますが、現状としてはプログラムを組んでも平日日中に対応する利用者はいないかたちとなります。今後、日中活動に行けない方が増えた場合は拡充を考えていきたいと思います。</div> <div>②現在、週1回のスタッフも含めると27名体制となっている。昨今、福祉人材は登用が困難かつ流出も著しいため登用できるのなら余剰人員も確保できるよう意識して採用している。</div> <div>③～⑤研修については計画に基づく管理者による法人内部の研修、毎月の動画視聴とレポート提出を定期研修として設定しています。勤務時間の長い職員に対しては入職研修を実施し管理者・マネージャーがスーパーバイズを実施している。資格取得については資格を取るための研修や試験日を勤務日として算定し取得を後押ししている。</div>
	支援の質の確保（資格取得・研修等）	<div>・ 取得した資格、参加した研修等</div> <div>サービス管理責任者・介護福祉士・虐待・接遇・感染症等研修</div>		
	重度化・高齢化等へのニーズへの対応	<div>・ 対応事例</div> <div>現時点で72歳の方にサービスを提供している。</div>		
	体験的利用のニーズ	<div>・ 体験利用人数</div> <div>3 名</div> <div>・ 体験利用の実例</div> <div>女性1名、男性2名の方が希望により実施</div>		
		各フロア複数名スタッフを配置し余暇活動等も提供できるようにしている。見守りカメラ等も増設している。		
	日中、土日を含めた常時の支援体制の確保			

項目	評価の視点	実地状況等【具体的な内容】	協議会委員からの要望・助言・評価	事業所 回答
4. 利用者の状況 (R6. 4. 1～R7. 3. 31)	利用者数（実人数）	17名	①医療的ケア・強度行動障害のある利用者が0人と他の事業所と比べてもばらつきがある。積極的な受け入れをお願いしたい。	①今までも設備面で難しいケース以外で受入れを拒否したケースはほぼないが、規定の職員数を確保できつつあるため、日中支援型GHとしての役割を全うできるよう受け入れ態勢を充実させていきます。
	障害種別（重複はそれぞれ計上）	身体 1名 知的 5名		
		精神 11名 難病等 名		
	利用者の障害支援区分	区分6： 0名 区分5： 1名		
		区分4： 4名 区分3： 8名		
		区分2： 4名 区分1： 0名		
		区分なし： 0名		
	利用者の障害特性等	・医療的ケアの必要性、強度行動障害のある利用者的人数		
		17名中 0名		
	他の日中活動サービスの利用	・他の日中活動の利用状況		
		17名中 14名		
		・主な他の日中活動サービス利用先		
		隣接する生活介護事業所：紡		
5. 報告事項	利用者又はその家族からの苦情を解決するために講ずる措置	・苦情解決処理体制、手順		
		会社で規定した苦情処理マニュアルに準ずる		
		・苦情対応事例		
		窓口届けられた苦情は0件		
5. 報告事項	虐待防止・身体拘束適正化の取り組みについて	・虐待防止、早期発見のための取り組み		
		虐待の芽チェックリストの活用・年間研修や入職時研修の実施		
		・虐待発生事例、対応事例		
		虐待認定は0件、小さな虐待リスクについては職員にて情報共有		
6. その他	運営の特色・工夫等	・設備面での障害特性等への配慮	①災害時、緊急時の避難はどのようにしたらよいか、マニュアルとか訓練、地域の協力はありますか。 ②特記事項 訪看連携で何時でも相談できることはこころ強いと思います。相談後の看護支援介入も即対応できる体制を維持していただきたい。 ③管理者、サビ管の定着をお願いします。 ④地域住民とのコミュニケーションを取り、地域活動等への参加も可能な限り行うと良い。	①地域の協力を仰ぐことについては今後の課題と捉えています。災害時・緊急時の避難については防火点検時や法人内研修である災害避難研修等の機会に避難場所や退避方法についてスタッフ・利用者ともに逐次、確認を行っている。 ②同法人の訪問看護とは情報共有もしやすく、率直な意見交換も可能なため、利用者利益に繋がっていると考えている。今後も継続していきたい。 ③管理者・サビ管は人材獲得競争が加熱している昨今、パンデの理念や事業体系をしっかりと説明し理念に共感して頂ける人材を確保していきたいと考えています。 ④通常のサービス提供体制が整いつつあるため、次のステップとして今年度中には何かしらのアクションをしていきたい。
		トイレ3室（内車椅子対応1）浴室2室・施設内バリアフリー・エレベーター全引き戸・個室・全室エアコン・窓転落防止柵・洗面台・洗濯乾燥付き2台		
		・運営面での特色等		
		散歩、買い物、病院への同行支援、隣接する生活介護事業所の柔軟な利用。薬管理・金銭管理・訪問歯科・訪問理容		
7. 協議会からの要望・助言への対応（2回目以降）	要望・助言への誠実な対応	同法人内の訪問看護ステーションとの24時間体制の連携で何時でも相談できる。		
		・要望・助言の内容及びその対応 研修マニュアルの整備、研修参加希望日のシフト調整支援、社内定期研修会開催。		